

1 実施概要

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から実施されています。

令和5年度は市内、小学生738名、中学生600名が参加し、4月18日に調査が実施されました。調査内容は、毎年実施されている国語、算数・数学と学習意欲や生活状況等について尋ねる児童生徒質問紙調査となっています。なお、本年度のみ、中学校の英語が調査内容に追加されると共に、「話すこと」調査はオンラインにより実施されました。

本市においては、年間を通して、「京田辺市学力向上対策会議」を開催し、学力調査の分析結果を活用して、児童生徒の学力を一層向上させるために、教育委員会、各小中学校及び関係諸機関と連携を図りながら、各小中学校における教育指導の充実や学習状況の改善、教育施策の成果と課題を検証し、教育に関する継続的な検証改善サイクル(PDCAサイクル)を確立し、その改善に向けた取組を進めています。

2 学力調査の結果概要

【国語科の結果概要】

- 小学校では、すべての内容・観点において、国や府の平均正答率を上回っています。しかし、「情報の扱い方に関する内容」にやや課題が見られました。
- 中学校では、すべての内容・観点において、概ね国や府の平均正答率に近い結果となっています。中でも「情報の扱い方に関する事項」の内容についてよい結果が得られました。

【算数科・数学科の結果概要】

- 小学校では、すべての領域・観点において、国や府の平均正答率を上回っており、伴って変わる2つの数量や正方形の意味や性質に関する問題がよく解けていました。一方で、正三角形の意味や性質、高さが等しい三角形の底辺と高さの関係を基にした問いについては、国や府の正答率を上回っているものの十分な理解につながっていないことが推察されます。
- 中学校では、すべての領域・観点において、概ね国や府の平均正答率を上回っている内容が多く見られますが、「思考力・判断力・表現力等」に関する内容にやや課題が見られます。理由や証明を記述式で解答したり、問題解決の方法を数学的に説明したりする問題の正答率が低く、また、無回答率も高くなっている状況が見られました。

【英語の結果概要】

- 中学校では、すべての領域・観点において、概ね国や府の平均正答率を上回っています。「読むこと」「書くこと」に関する知識・技能は十分に身に付いている傾向にありますが、「聞くこと」の問題においては課題が見られました。

3 質問紙調査の結果概要

【生活習慣について】

- 小・中学校ともに、「朝食を毎日食べている」「同じくらいの時刻に寝ている」は国や府平均を上回っており、基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒の割合は高い水準を維持していますが、中学校においては、「同じくらいの時刻に起きている」の割合が国や府平均より低くなっており、朝の過ごし方が一日の生活リズムを整える上で大切な役割を果たしています。今後も、規則正しい生活習慣の確立に向け、各家庭においても生活リズムを整えるとともに、その習慣化にご協力をお願いいたします。

【学習習慣について】

- 小・中学校ともに、概ね家庭学習(宿題・習い事を含む)をしっかりと行っており、家庭学習が十分に取り組んでいる傾向にあります。しかしながら、1日の家庭学習時間が30分以下、または全くしない割合も増えており、家庭学習に取り組む姿勢に二極化の傾向が見受けられます。学校の授業の予習・復習をしっかりとやり切ることは勿論のこと、自らの学習課題の解決に向けた学習計画を立て、主体的に学習に取り組み、習慣化につなげていくことが大切となります。

【自分自身に関することについて】

- 小・中学校ともに「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合は国や府を上回っており、自己肯定感・自己有用感の高まりが感じられます。また、「将来の夢や目標を持っている」「普段の生活の中で、幸せな気

持ちになることがある」という質問では、小学校の割合が国や府より高いのに対して、中学校は低くなっていきます。いずれにしても、将来への目的と展望を持って、自らの進路を主体的に切り拓く能力や態度を育成していくことが大切と考えます。

【学習への関心について】

○「勉強は大切だと思う」「授業の内容はよく分かる」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の項目では、小学校で高い水準にあり、学習への関心や学ぶことの意欲が高い傾向にあるが、中学校になると、それが少し低くなる傾向にあります。一方で、「勉強が好きである」の項目については、6割前後の回答となっており、主体的な学びという点では、課題が感じられます。児童生徒が主体的に学習に取り組む態度など学習意欲の向上につながるような学習活動が展開されるように、今後も授業改善に努めてまいります。

【ICT利用と学習への関わりについて】

○小・中学校ともに、授業時間におけるタブレット端末等のICT機器の利活用や使用頻度は、国や府より非常に高い割合を維持しており、学校教育におけるタブレット端末の活用が「日常化」されていることと言えます。しかし、授業時間以外での学習についての使用時間や頻度が少なく、家庭学習においても効果的な活用を検討していくことが課題として挙げられます。併せて、情報モラル教育やシティズンシップ教育を活かした教育活動を展開し、学びを深めるためのICT機器の活用に取り組みながら、今後の授業改善にもつなげていきます。また、各家庭におかれましても、個人情報の取り扱い等について、お子様と十分に話し合っただけであれば幸いです。

4 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策

【国語科の重点的な方策】

○小学校では、目的を意識させたり、互いの立場を整理させたりしながら話し合い活動を充実させ、様々な視点から自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、まとめることができるよう指導してまいります。また、情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方理解した上で、適切に使うことができるように学習活動を行い、主体的・対話的で深い学びによる授業改善に努めてまいります。

○中学校では、文脈に即して漢字を正しく書くことができるようにするとともに、読み手の立場に立って叙述の仕方を確かめて文章を整えることができるように指導をしていく中で、レポート等に表現する力を一層高められるような授業改善の工夫を行ってまいります。

【算数科・数学科の重点的な方策】

○小学校では、比例の関係にある問題や、三角形の意味や性質に関わる理解に弱さが見られたため、復習を重ねながら知識・理解の定着を心がけるとともに、図・式・グラフ・言葉を使って、筋道を立てて説明できる場を設定しながら、思考力・表現力・判断力等を高めるような主体的・対話的で深い学びによる授業改善に努めてまいります。

○中学校では、「反比例」や「数学的な表現を用いて説明する」問題等、既習内容の定着を図るとともに、様々な資料やデータから必要な情報を取捨選択し、問題解決の過程や結論を考えたり、説明したりする学習活動を積み重ね、学びと日常生活がつながっていくような授業改善の工夫に努めてまいります。

【英語の重点的な方策】

○中学校では、「聞くこと」にやや弱さが見られるので、ネイティブの発音を聞く機会に触れるなかで、聞く耳を育て、日常的な話題について短い文章で概要を捉えたり、活用できる技能を身に付けたりすることで、英語を使った表現力の向上につながるような授業改善の工夫に努めてまいります。

【質問紙調査に係る重点的な方策】

○学力の定着については、家庭学習とのつながりが重要です。予習・復習、自らの課題に向けた主体的な学習など、自分で計画を立てて学習できるように、各小・中学校においても、引き続きより質の高い家庭学習や自学自習の習慣化の確立に向けた取組を進めてまいります。各家庭におかれましても、ご理解ご協力をお願いします。

5 最後に

本市教育委員会では、これからの時代を生きる“これからの京田辺っ子たち”が、学校・家庭・地域の中で、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に身に付け、生き生きと、のびのびと、そしてたくましく成長していくことを願っています。

本調査の結果だけで、学力等の全てを表すことはできませんが、これを1つの指標として、児童生徒一人一人の学びや生活を充実させ、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むために、各小・中学校で有効に活用し、京田辺っ子たちの学力充実に向けて、一層の努力をしてまいります。

保護者様をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。